

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年5月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	調味材料製造業	醤油出荷量は、前月比、前年同月比とも増加し、前年度の水準をやや上回ってきた。
	パン・菓子製造業	5月連休に百万石菓子百工展を金沢城公園で開催したことにより、観光客も前年同月より増え、菓子の売上も伸びた。
繊維・同製品	その他の織物業	連休明け後も低速状態が続いている。一部持ち直しの傾向も見られるが、業界全体では悪化が止まらない。
	織物業	絹分野では景気の緩やかな回復傾向に伴って、商品によって健闘しているものも見られるが、業界の信用不安は根強く残っており、業界全体では売れ行きの悪い状況が続いている。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細分繊織物など差別化衣料で好調なものも点在するが、景気の停滞による需要の減少により生産、販売、採算ともに改善は見られない。
	ねん糸製造業	メーカーの値上げにより、実質10～15円/kgの値上げが実施され、厳しい状況。
	ニット生地製造業	これまで比較的健闘してきたと言われる分野でも苦戦する企業が出てきた反面、これまで苦戦していた企業が好転したりと、流通経路や商品開発の状況等により勝ち組と負け組が明確になりつつあるが、いつまでも勝ち組にいられるとは限らないといった現象も顕在化している。
	その他の織物業	5月度は、4月度に続き、依然として受注、生産、販売ともに増加は見られず、低迷状況が続いている。日本経済全体の好転が、我々を取り巻く環境への波及改善を期待しながら、現状を乗り越えていかざるを得ないだろう。
木材・木製品	家具製造業	後継者がいない為、近年廃業に至るところが出て来ている。
	製材業、木製品製造業	業況は依然として低迷し続けており、先の見通しも明るくない。出材業者も、いかにして山林所有者から買い付け値を低くしようか苦勞しているようです。(必要経費を減らすことを第一に)
	製材業、木製品製造業	5月度は、仕事量に関しては、ほぼ順調に推移し好調である。
窯業・土石製品	砕石製造業	5月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比生コン向けで49%と前例のない大きな落ち込みとなり、全体量でも40.2%減少となった。設備操業度も43%減少となったものの、在庫量は約37.7%増加となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	茶碗まつりは、5月4日を除いては天候にも恵まれ、たくさんの来場者で賑わいが見られた。6月初旬には、名古屋で新作見本市が行われる。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、5月末現在で前年同月比65.2%と大幅な減少となり、前月に引き続き低調に推移した。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	当月も活況であった。一部の企業で多忙すぎる為、図面が間に合わず、納期に追われて原価高になるものが出て来ている。収益状況に影響してくる。
	鉄素形材製造業	業況は、好調の自動車産業、そして繊維機械、建設機械を含む産業機械に支えられて昨年同様安定してきている。ただ、中国情勢により左右されているきらいがある。業況は安定しているものの、まだピークには程遠い。これからの活況を期待したい。だが、鑄造資材の値上がりが厳しく、製品の値上げもままならない中、苦しい経営が余儀なくされてきている。
	鉄素形材製造業	売上並びに受注状況において、上昇傾向がストップし、一部の団地内企業では横這い又は減少傾向にある。
	機械器具の生産	仕入材料の高騰が、販売価格に上乘せが難しい下請企業にとって、今後資金繰りが問題視されるのではないかと。
一般機械	繊維機械製造業	当組合の主要取引先である繊維機械メーカーの生産はスローダウンしているが、建設機械、工作機械、車輛等からの受注は引き続き好調で、組合員は皆忙しい状態が続いている。
	機械金属、機械器具の製造業	繊維機械関連が、前年同月比10%強減少したが、他業種の好調な推移に吸収され、総体的には微増であった。月初めのGW中も休日総業する工場も散見され、多忙感のある状態が続いている。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器業界の市場は依然として悪く、状況は変わっていない。量販店向けの商品も落ち込み、全体として低迷が続いている。伝統漆器も依然として回復の兆しがないが、産地での生産・販売とも落ち込みに底が見えた感もある。外国の廉価な木製品も売れ行きに頭打ちの状態と輸入が多少減った感がする。近代漆器(樹脂漆器)の分野にも外国の廉価な製品の輸入が続いており、産地の影響は多大である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年5月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	卸売業	繊維品卸売業	和装絹織物は、末端での売れ行きが悪く、単価の下降と売上高の減少に苦戦しているようである。
		農畜産物・水産物卸売業	売上高は一時下げ止まりとなり、このまま推移されることを期待していましたが、需要が伸びなく、減少がつづきそうです。
		一般機械器具卸売業	5月度は、稼働日数が少なく販売金額は苦戦でした。組合員各社とも決算の内容が出されましたが、いずれも前年並みの内容でよくありません。全国でも当業界は75%が赤字と言われていますが、市場での価格の乱れに対処できていないのが大きな原因です。
	小売業	燃料小売業	原油価格は依然として高騰を続けており、石油ショックの再来。6月は今までにない大幅な仕切り価格の上昇が伝えられており、小売価格にもろに影響を与えそうであると予想される。
		機械器具小売業	5月に入っても厳しい状況は続いており、期待のデジタルハイビジョンテレビの伸びは完全に鈍化し、昨年並みを辛うじてキープ。5月連休での地域店営業日減少に加え、ルームエアコンの早期実販も進まず、5月も90%台の伸びで終了。6月には各社合展開催があり、地域店の頑張りを期待している。
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	昨年は好天候であったが、本年は天候不順もあって、初夏もの衣料は前年を大幅にダウンした。母の日セールも不振で、衣料品より生花、飲食、健康に関する付属品へと贈答品に変化の傾向が見られた。
		鮮魚小売業	5月連休以降、全体的に生鮮魚が売れない。漁は順調で、入荷も比較的豊富。なのにとにかく売れない。物によっては、15~20年前の値段に逆戻りしたのものもある。
		他に分類されない その他の小売業	GWが長期だったので、多くの観光客の来館があった。
		百貨店・総合スーパー	5月の売上実績は170,031千円。予算費93.8%。前年比98.5%で、GW期間中は、連休が1日多い為よかったが、それ以前は前年をクリアする日が少なかった。特に5月のイベントとしての母の日(5/7~9チラシ期間)の前年比85.1%、5/25の特招会の前年比81.7%とふるわなかった。
		米穀類小売業	米販売店は、登録制から届出制に切り替わり、直売生産者も含めて年間20精米トン以上の事業者に届出が義務付けられる仕組みに変わった。米卸・小売・集荷・販売の区分が撤廃され、一本化された。直接生産者の販売増に比べ、小売販売店の大幅減が目立っている。
	商店街	近江町市場	来街者の減少が目立つ。売上も減少。
		尾張町	目的買いがはっきりしている中で、尾張町の店はそうしたお客様に選ばれているのか、今月もそんなに厳しい落ち込みはなかった。
	サービス業	旅館、ホテル	昨年は、当組合員が8名脱退(廃業・休業)や、金沢駅東口周辺に大型ビジネスホテルが建設されるなど大変厳しい環境であり、今後組合員の経営向上や中・長期展望等早急に取りまとめて対応していかなければ、組合運営に影響がある。
		旅館、ホテル	1~4月と対前年比プラス傾向で推移しているものの、好景況感は薄い。石川県・北陸へ旅行する理由をはっきり打ち出していくことが必要。宿泊施設の魅力は当たり前で、その他の観光面の魅力の充実化が早急な課題でもある。
		自動車整備業	継続検査対象車両数は、前年同月比1.8%増、前月比では11.4%減。新規登録車両は、前年同月比12.4%減、前月比では0.3%増で推移している。
		洗濯業	昨年比マイナス10%でした。ホテル旅館関係もGWとは言えあまりでませんでした。一般クリーニングも、休み明けに出るには出たが、「山」がない。気温の乱高下で、毛布・こたつ布団などは少なかった。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比16.6%の減となった。内訳として、民間土木11.5%増、民間建築16.7%減となり、民間としては12.3%の減となった。公共土木19.7%減、公共建築30.6%の減となり、公共としては23.2%の減となった。
		鉄骨・鉄筋工事業	稼働率80%。組合員間格差があり、多忙感は少ない。
		板金・金物工事業	やや仕事量が増加しているが、材料費が2割程高くなっている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	5月はゴールデンウィークのため稼働日数が少ないところへ、更に物流量も落ち込んできたようである。特に建設関連のダンプの稼働率の落ち込みがかなり激しく感じられるなか、燃料の軽油が値上がりしてきており、6月に入ると更に大幅な値上げを要求されるようであり、収受運賃が下がってきているなか、値上げを要求され困惑している状態である。
		一般乗用旅客自動車運送業	景気動向は変わらない。収益も不変(減少傾向の歯止めは出来ない)。業界内は増車、新規加入傾向は変わらず、変化は見られない。駅での客待ち時間も2時間平均となり、車が溢れ、近隣住民に迷惑をかけている場面が見受けられ、街頭指導を実施しているが、イタチゴッコが現状である。
一般貨物自動車運送業		当月も荷動きが活発で、売上高は前年同月比増加した。但し、運賃単価は依然として低迷したままであり、忙しいだけで利益にはつながっていない。人員や車両は増加されていないのでやり繰りが大変であるが、これも本格的な回復か一時的なものかの見極めがつかず、設備投資には踏み切れない。燃料の高騰に困っている。	